

2003.1-19
天候>曇り

氷ノ山越え --- 氷ノ山越え避難小屋 --- 氷ノ山越え

大塚賢一 47才
大本誠一 23才

霧の一粒一粒が身体にまとわりついた下界のホコリを洗い流してくれ、きらびやかな霧氷の乱舞に歓迎され、冷たく重い雪に閉ざされても悠然としてそびえ立っている木を見ていると頭も体も洗礼されていく。



昨日は新大阪で野口建の講演会を聞きに行き8000m峰でのかなり厳しい体験談をしみじみと聞かせてもらった。特に死体回収が出来なくて置き去りにしているのには驚きを隠せなかった。

帰りにIBSに寄りビーコンの事を詳しく説明してもらったがこれを使いこなすには相当の練習が必要である。私が今までに経験した雪山では雪崩れが起こらない保証は一つもないと言っているだろう。今はゾンデ棒、スコップは常備しているのでやはりビーコンも必要不可欠だろう。

6:45 氷ノ山国際スキー場駐車着

「駐車代 1500 円は高過ぎやろ～」

健太と舞はボード遊び、私と大本は雪山フル装備でザック重量 15 kg。

ここに車をデポでそれぞれの遊びに分散する。

7:30 スタート

今日はトレーニングなので一泊出来るテント装備である、それにスコップ、スノーソーを常備してブーツはツアーブーツである。

林道は氷ノ山橋から雪がベッタリと積もって歩きにくいので早速にアイゼンを装着する。

8:00 670m 氷ノ山越え登山口

トイレ横の駐車場に昨日か一昨日にテントの張った後がある。そのパーティーのトレースがついているが、さて何処までついているのやら、山頂まで付いていた儲けものであるが・・・。

氷ノ山越えの登山口に登山届けを出してスノーシューを付けてスタートする。雪は昨晚も降ったようである上までは沈む。

氷ノ山越え名物の丸木橋。幅 30cm、長さ 2m、高さ 1m の丸木橋の上に 30cm 程の雪が積もっているのを恐る恐るに渡っていく。

ここからの登山道はつづら折れの急勾配なのでこの厳冬期には雪が

積もれば夏道の登山道は全くと言っていいほどに何処にあるのか分からなくなってしまうが、まあ何とか地藏堂までは比較的に分かりやすい。

9:27 935m 地藏堂到着

トレースは地藏堂手前で全く消えていた、と言うより引き返していた。



ややこしいスノーブリッジをトラバース

ここからが難しいトラバースがあったり直登があったりで時間がかかるルートなのに・・・。

我々も予定はここまでで引き返して半日券でゲレンデで遊ぶつもりであったが、大本がまだ親指が完治していなくて滑りたくなさそうなので、氷ノ山越え避難小屋を目

指すことにする。

このあたりから膝までのラッセルで先頭交代で登っていくが、なにぶん道が分からないので慎重に地図・磁石・高度計を頼りに進んでいく。

ここから先は11月後半にこの時期に入るために赤布のマーキングを所々にしていたのだが、積雪量が多いために隠れてしまっているのか完全にコース間違いをしているのか見あたらない。

9:54 1000m トラバース



キックステップで直登

しかし、ルートは間違っていないなかった。ここからのトラバースは2つ目の小さな沢を渡る所で記憶に残っている。

夏道はつづら折れの道なので少し外せば直登をせざるをえない、これがまた胸まである雪をかき分けてスノーシューをキックステップしながらなの



地藏堂



で非常に疲れる。また所々でデブっているので慎重になる。

「ここから山頂が見える」との看板があるが山頂はガスっていて全く見えない、おまけにそのガスがだんだんと下へ降りてきていて視界範囲が狭くなってきている。

11:03 1300m 直登

あれっ？、気圧が下がっているせいで高度が狂っている。小屋は1250mなのに一向に見えてこない、ガスっているのでよく見えないが、前方にまだ尾根があるようだ。たぶんあの尾根上に小屋があるはずである。

しかし、その尾根に取り付くには少し下がって10mほどの雪壁をかきわけながらラッセルしなければたどり着けない。スコップを出してかき分けようと思ったが新雪なので両手で手前につぶしながらキックステップで0度というのに大汗をかきながらルートを作っていく。

11:25 1350m 氷ノ山越え避難小屋着

高度は100m狂っていた。小屋にはなんとこの大雪の中をアベックの山スキーヤーが来ていた。我々とは反対側の鳥取方面のキャンプ場から来ていた、この時期はほとんどが鳥取側から入山者である、約一時間半で登って来るそうだ。しかし、この重雪を滑るとなると・・・大したものである。

赤倉山方面へいくテレマーカーとワカンのトレースが付いていたがこの者達も強者である。

11:45 ラーメンタイム

ザックをおろし小屋内で雪を溶かしラーメンタイムに興じる。二人とも早速カメラ付き携帯でこの素晴らしい景色を友達に送る、便利な

世の中になったものである。

食事を終えると、なんとガスがすっかり取れて素晴らしい景色が360度飛び込んできた。天気予報では午後から崩れると言っていたのだが、薄青空もときおり見えだしたきた。

13:05 稜線歩き

小屋にザックをデポして、眼前に映るブナ林の霧氷花と杉の木のモンスターを見にしばし稜線歩きを楽しむ。気温も下がっているのでブナの枝に見事な霧氷がびっしりと花を咲かせている。また杉の木は重い雪に覆われて緑の枝がほとんど見えずにモンスターと化している。この景色にはいつまで見入っていても飽きないほどだ。

14:15 下山開始

帰りはピストンなのでトレース通りに下ればなんら問題ない、また下にトレースが見えればそれを目指して直降で下って行くので早いことこの上ない。しかし、まだまだ雪が積もるだろうから赤布を要所々にマーキングして下って行く。

15:45 駐車場着

雪山の下山は夏山よりはるかに早く下れるので楽しいことこの上ない、スキーがあればなおさらである。次回からは板を持ってこよう・・・。

